

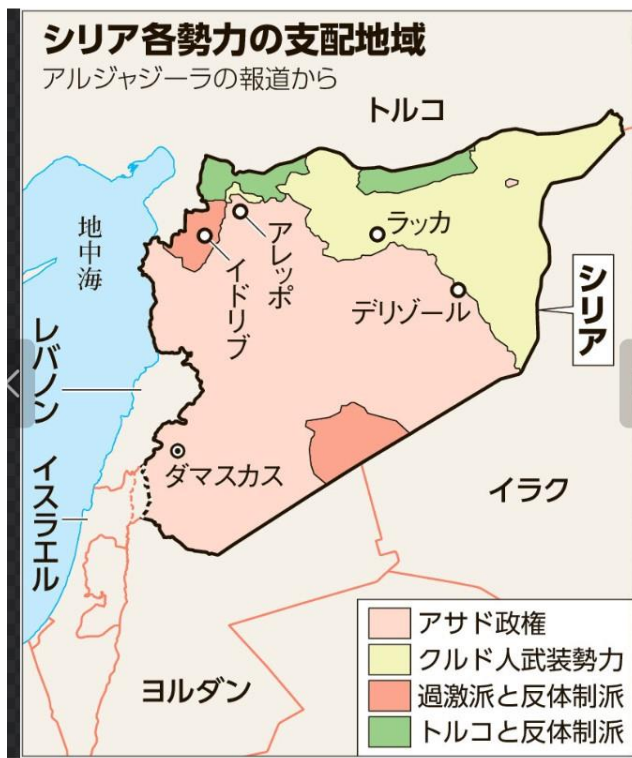
シリアのアサド政権の崩壊（585号）

2024年 12月 石館

パレスチナ・ハマスのガザにおける越境攻撃から今年10月7日で1年となった。イスラエルの過剰ともいえる報復攻撃は、おびただしい数の人命を奪い続けて居る。この1年、イスラエル軍がガザで行ってきたのは、ジェノサイド（大量殺人）そのものでないのか。十数万人のパレスチナ人が死傷し、百数十万人が住居を失った。勿論イスラエル側にも、国家の生存権をかけてこの機会にハマスを根絶やしにするという論理もあろう。

イスラエルのレバノンへの侵攻でヒズボラの多くの幹部が殺害され、次第にヒズボラは弱体化している。

ヒズボラの弱体化は中東全体に影響を及ぼすことは予想されていた。シリアのアサド政権を支援してきたヒズボラの急速な弱体化が進み、1980年代創設以来最大の危機に直面している。



世界の人々の目はイスラエルとハマスのガザによる越境攻撃、およびハマスを支援するヒズボラとイスラエルの戦いに、注視されてきたが、いつの間にかまた2011年に勃発したシリア内戦に目を向けざるを得なくなってきた。

シリアという国はどんな国であろうか。面積は日本のおよそ半分で、人口は約2100万人で、日本の近畿地方（約2200万人）ほぼ同じくらいである。人口のおよそ75%がアラブ人で、10%がクルド人、残りは他の民族

で構成されており16世紀にイスラム世界の大国であるオスマン帝国の領土と

なる。その後、オスマン帝国が滅亡した20世紀の初めに、ヨーロッパ列強の一つだったフランスの植民地となった。

現在のシリアに当たる地域は、中東で最強の国であったオスマン帝国の支配下にあった。オスマン帝国敗北後、サイクスピコ協定により、フランスの委任統治領となる。

シリアは、トルコやイラクなど5カ国に囲まれ、西部は地中海に面しており温暖な気候だが、内陸部は砂漠が広がる。

国土中央にはトルコからシリアを経て、イラクに繋がる西アジア最長の大河、ユーフラテス川が流れている。



アサド一族

後列左から2番目の次男が父親の跡を継いで大統領になった

かつてはオスマン帝国領に属し、後にフランスの委任統治を経て、1946年に独立した。1971年、アサドがクーデターで政権を掌握して以来、アサド一族の独裁

が40年以上にわたって続いている。2000年にアサドが死去すると、大統領は息子のアサド（ハーフィズ・アサド）に引き継がれた。この状況に風穴を開けたのが“アラブの春”である。

中東全域を覆った民主化運動であるアラブの春は、シリアにも波及し、アサド政権を大きく揺さぶる。

2011年：少年たちによる反政府の落書きに対する逮捕・拷問がきっかけでデモが拡散。政府が武力で鎮圧したため、各地で反政府勢力が蜂起

2014年：ISIL（自称イスラム国）が北東部のラッカを制圧。アサド政府軍反乱軍、ISILが3つ巴の戦闘

- 2015年：ロシア軍がアサド政権を支援
- 2017年：反乱軍がラッカを制圧、ISILの勢力が事実上壊滅
- 2018年：アサド政権軍が首都ダマスカス奪還
- 2020年：ロシア軍とトルコ軍がシリアでの停戦に合意

シリア紛争は以下の4つのフェーズで進行した。

*内戦の始まり *3つ巴の内戦 *ロシアの介入 *ISILの壊滅とアサド政府軍の復活

2011年にアラブ諸国で始まった民主化運動“アラブの春”が波及する形で反政府デモが行われたが、アサド政権が武力で弾圧して反政府勢力との戦闘になり、内戦に発展した。この混乱に乗じて過激派組織ISが台頭し、政府軍と反政府勢力、それにISが三つ巴の激しい戦闘を繰り返すようになる。

アサド政権をロシアやイラン、反政府勢力をトルコやアメリカが支援し、それぞれの思惑が絡み合い、内戦は泥沼化する。アサド政権は、一時劣勢となったが、ロシアからの空爆の支援を受けて反政府勢力やISの支配地域を奪還。2016

年12月に北部アレッポを完全に制圧し、軍事的優位を確実にした。

そして2020年、アサド政権の後盾のロシアと、反政府勢力を支援するトルコが停戦に合意してからは散発的な衝突はあるものの、大規模な戦闘は収まっていた。

では、反体制派は何故今、攻勢に出たのだろうか。それはアサド

政権を支援してきたヒズボラの弱体化にある。1年超に及ぶイスラエルとの戦



闘により指導者のナスララ師をはじめとする幹部や多くの戦闘員を殺害され、1980年創設以来、最大の危機に直面している。

シリアを支援している、イランやロシアの勢力が弱まってきたアサド政権の際を突く形で反体制派が攻勢を強めてきた。11月27日のイドリブでの侵攻開始はアサド政権の意表を突いた。その後アレッポ、ハマと南下を続けダマスカスを制圧、12月8日にアサド大統領はロシアに亡命した。

トーマスはシリア内戦が起きる前三菱重工と組んで大型発電所を3か所建設した。その意味ではシリアに深く食い込んでいた商社の一つである。小生はシリアの秘密警察の長官が日本に来た時一緒に食事をしたことがある。その際カバンから分厚いファイルを出し、これは貴方に関連したファイルであると言った。このように相手国の責任者のデータを集めているのには驚いた



今回の大規模攻撃を率いたシャーム解放機構は新政権の中心として果して機能するであろうか

シャーム解放機構のジャウラニ指導者

今回専門家も驚く速さでアサド政権は崩壊した。ロシアがシリアを見捨てたのか、それともロシアでも打

シリアのロシア軍基地を巡る情勢



つ手がなかったほど政権が弱体化していたのか。

いずれにしてもロシアの安全保障全保障戦略における痛恨の大敗北となる可能性が出てきた。

メディアも専門家も、これほどのスピードでアサド政権が敗戦するとは思っていなかったようだ。敗因の一つとし

て政府軍の戦意喪失が挙げられる。長年の内戦で兵員は不足し、士気も低下していた。要するに大半の政府軍は全く戦わずひたすら戦線から逃げたようだ。

シリアの反政府軍も、それに対峙するイラン軍もヒズボラも、いずれも満足な空軍戦力を持っていない。政府側も反政府側も陸上戦力で攻撃を仕掛けるしか他に方法はない。一方ロシア軍はアメリカ軍に次ぐ、世界2位の空軍大国である。以前ならロシア空軍は反政府軍を空爆し、大きな戦果を得ていた。



シリアにあるロシアのヘメイミーム空軍基地

しかしロシアのウクライナ侵攻以降ロシア空軍も相当ダメージを受け、以前のような空軍力を維持できていない。

ロシア、在シリアの基地存続に暗雲 アフリ
ウクライナ侵攻でロシア空軍も手一杯であり、シリア反政府軍の侵攻をロシア空軍が止める余力がなかった。

ロシアは旧ソ連の1970年代、シリアのタルトゥースに海軍基地を置き、地中海で唯一の補給・修理拠点として機能させた。さらに2010年代にはヘメイミーム空軍基地も建設。どちらの基地もロシアが中東各国やアメリカに睨みを利かせ、黒海から地中海に抜けてアフリカ各国などと貿易を行うシーレーンの確保に大きく寄与してきた。

新暫定政権に近い反体制派幹部は、シリアにおけるロシアのプレゼンスやアサド政権とロシアの過去の合意に関する問題は議論されていないと指摘。もしロシアがシリアにおける権益を失うようなことになれば大変なことになるので、何とか暫定政権と話をつけようと必死になるであろう。